

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 事業 委託 補助用 )

## I 基本事項

整理番号 169

事業名	セライナ市派遣・海外語学研修事業		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	市長公室			款	総務費・2款
電話	0799 - 43 - 5002			項	総務管理費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	国際交流費・13目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり			
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】			
	施策目標	子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する			
該当する事業について「 」を選択		施策的	業務委託	負担金補助	

## II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	対象(誰を・どのような状況の人に)	市内在住の中高生 南あわじ市の一学年の生徒数:約550人 550人×4学年		対象人数(人)	2,200
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 海外でのホームステイ体験を通じて国際感覚及び語学力を養い、国際色豊かな南あわじ市づくりのための人材を育成する。			
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 次の2つの事業を18年度から隔年で実施しており、必要経費の1/2を補助している。 セライナ市派遣事業:中学3年生から高校3年生までの中高生(10名)と青年層(2名)を募集し、7月末～8月上旬にかけての13日間の日程でホームステイ体験を実施している。 派遣事業 平成5年度から17年度 191名派遣 海外語学研修事業:中学3年生から高校3年生までの中高生を募集し、8月上旬から中旬にかけての13日間の日程で語学研修をしながらホームステイ体験を実施している。			
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) セライナ市派遣事業:平成5年旧南淡町がアメリカ・セライナ市と姉妹都市提携を締結し、毎年派遣・受入の相互交流をしてきた。 海外語学研修事業:平成10年度から旧緑町が、中学生海外派遣事業として実施していた。(アメリカ・シアトル市、オーストラリア・パース市・ケアンズ市)			
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 民間・その他 ( )		
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度	～	平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 平成17年度は、姉妹都市ホームステイコース(セライナ市)と海外英語研修コース(ケアンズ市)と2コースを実施したが、18年度からはそれぞれのコースを隔年に実施することとした。また、				

## Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	応募者数	指標単位 人			
	指標説明 (指標算出方法等)	応募者数により住民のニーズを図る。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	26	15	10	15	
	実績値	32	29	8		
	達成度 (%)	123.1	193.3	80.0	-	
目標値設定の考え方	応募件数が多ければ、住民ニーズが高いと評価できる。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	満足度	指標単位 %			
	指標説明 (指標算出方法等)	海外でのホームステイを体験を通じて、国際感覚を養い国際色豊かな南あわじ市づくりのための人材を育成するために必要かどうか満足度を計る。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	80	100	100	100	
	実績値	80	100	100		
	達成度 (%)	100.0	100.0	100.0	-	
目標値設定の考え方	アンケート等の実施により満足度を図る。					
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	6,570	3,088	2,817	2,777	
	事務費	468	170	87	109	
	学生等海外派遣事業補助金	6,102	2,918	2,730	2,668	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	6,570	3,088	2,817	2,777	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	307	299	301	301	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
	事業量1(事業に要した日数)	20.0	20.0	20.0	20.0	
事業量2(事業に要した人数)	0.5	0.5	0.5	0.5		
年間経費([A]+[B])	6,877	3,387	3,118	3,078		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	3.1	1.5	1.4	1.4		
受益者人数(15)1人当り経費(千円)	458.5	225.8	207.9	205.2		
経費に関する補足説明	平成17年度までは、年間に2つの事業を実施していたが、18年度より各事業を隔年で実施している。					

## IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
	活動結果指標目標達成度	%	123.1	193.3	80.0	-		
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) セライナ市派遣事業:2回目の南あわじ市海外学生等派遣事業を募集(中学生10名・青年層2名)したところ、29名からの応募があった。  海外語学研修事業:平成17年度は、中学生10名派遣に対し、19名の応募があった。平成19年度においては、応募締切後に数件の問い合わせがあった。							
							4	
有効性		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
	成果指標目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-		
	成果向上率	%	-	25.0	0.0	-		
(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 海外におけるホームステイでの実体験は、吸収力の高い中学生にとっては、その目的に対してかなり有効性の高い事業といえる。							4	
効率性		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
	活動実績1単位当り経費	千円	214.9	116.8	389.8	-		
	効率性増減率	%	-	45.7	233.7	-		
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 適正な費用である。							4	
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			自己評価 (5点評価)	
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) セライナ市とは平成5年に姉妹都市提携を結び、派遣・受入事業の相互交流を実施しており、今後も継続が必要である。 また、有効性から考えても当該事業の継続は必要である。							
							4	
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<p>姉妹都市提携後、セライナ市との歴史があり、将来の南あわじ市づくりのために、国際色豊かな人材を育成していくには最適と考える。</p> <p>また、オーストラリアへの海外語学研修についても、イングランドの丘・ファームパークのコアラによる友好を考えると、行き先として継続することが寛容と考える。</p>					<p>評価グラフ</p>

## V Action&amp;Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	国際色豊かな人材を育成していくために本事業は最適と考えられ、今後も継続していく必要がある。 ただし、平成19年度より補助率を60%から50%に改めている。	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<b>仮に</b> 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 住民ニーズ及び人材育成としての政策効果を考える上では、大きなマイナスとなる。	